

# ツネ #05 2025年1月号 ログ



夢 キャンプ 2024  
with SAMURAI BLUE

JFA NATIONAL TEAM PARTNER

能登半島地震から1年が過ぎました。昨年9月には奥能登豪雨が発生するなど被災地は今なお厳しい状況が続いています。日本サッカー協会(JFA)は石川県サッカー協会、全国のサッカーファミリー、そしてパートナー各社と力を合わせて物資支援、サッカー教室などさまざまな形で復興支援活動に取り組んできました。これからも継続して被災地に寄り添った支援を行ってまいります。



復興支援活動の中でエポックメイキングなことだと思えたのが、昨年6月に高円宮記念JFA夢フィールドで行った「夢キャンプ2024 with SAMURAI BLUE」でした。

被災エリアの小学生チームを招待して、日本代表選手らと交流する機会をつくりました。画期的だったのは多くのパートナー企業が一緒になって協力してくれたこと。企業としても被災地の皆さんのために何か力になりたいと思ってもそのノウハウがなかったり、情報がなかったりと、動きたくともなかなか動けない状況があったのかもしれません。この「夢キャンプ」ではJFAがハブになって、移動、宿泊、備品の手配、イベント運営、情報発信などパートナー各社それぞれの強みを活かしてもらいつつ、JFA含めて皆さんが一緒になって取り組むことで素晴らしいイベントにすることができました。

もう一つ言えば、このイベントは価値共創につながるものでした。われわれが目指す価値共創とは、複数が一体となって問題を解決していく中でサッカーがツールになり、われわれが人と人を結ぶブリッジになること。世のために良いこと、パートナーにとって良いこと、そしてサッカー界にとって良いこと、「三方よし」であることが望む形です。価値共創は「JFA中期計画2023-2026」にも盛り込んだ「新たな成長モデルの構築」において大事な要素です。ただ、その言葉がどうも独り歩きして、JFA内でもなかなかイメージしにくかったところはあったかもしれません。

「夢キャンプ」を含めてちょっとずつ実例が増えていることで、各方面において理解が深まっていると感じています。社会的価値を高めていくことは、ひいては商業的価値を高めていくことにもなります。

話は変わりますが、昨年10月29日に韓国・ソウルにて「AFCアニュアルアワード2023」が開催され、パリオリンピックでU-23日本代表を率いた大岩剛監督が男子の年間最優秀監督賞、なでしこジャパン(日本女子代表)の清家貴子選手が女子の年間最優秀選手賞、波多野祐一レフェリーが審判特別賞を受賞するとともに、JFAが年間最優秀協会賞(プラチナム)を受賞しました。

ガバナンスを含めて高く評価され、アジアサッカー連盟(AFC)加盟の47ある協会のなかで「一番」に選ばれたわけですからとても光栄に思います。また各国協会の会長と専務理事による会議が開かれ、いろんなプレゼンテーションがあった中、プロモーションの新しい視点を学ぶこともできました。こういったことも今後活かしていければと考えています。

公益財団法人 日本サッカー協会 会長

宮本恒靖

# 会長の活動報告

2024年11月22日～12月21日(抜粋版)

11/23(土)

## 天皇杯JFA第104回全日本サッカー選手権大会決勝 (国立競技場)



素晴らしい決勝でした。能登半島地震や豪雨で被災した能登の子どもたちにも、表彰式をはじめさまざまなシーンで手伝ってもらいました。子どもたちが地元へ何かを持ち帰ってくれることを望んでいます。

12/13(金)

## U-23日本代表監督 就任会見(JFAハウス)



大岩剛監督に続投をお願いしました。ロサンゼルスオリンピックでのメダルを目指すとともに、SAMURAI BLUEが強くなり続けるためにはこの世代の成長が不可欠だと考えています。

11/27(水)茨城県、28(木)神奈川県、30(土)秋田県  
12/1(日)青森県、6(金)福井県、7(土)石川県、14(土)新潟県、19(日)富山県

## 47FA訪問会議



引き続き各地のFAを訪問して地域ごとの課題を共有し、地元メディアなどで情報発信をしています。今年中に各地域の好事例を皆さまに共有できる研修会を計画しています。(写真左から茨城県、福井県)

12/15(日)

## 高円宮杯U-18サッカープレミアリーグ2024ファイナル (埼玉スタジアム2002)



両チームの特長が出た良い試合でした。育成年代のリーグ戦の充実度は次世代の日本サッカーにとって非常に重要。運営に携わっていただいている方々にあらためて感謝申し上げます。

12/16(月)

## JFAパートナー御礼の会(東京ドームホテル)



日頃から代表チームや日本サッカー協会の事業をご支援いただいているパートナーの皆さまに感謝の意をお伝えしました。今後もステークホルダーとの連携を強化していきます。

11/28(木)

## WEリーグ理事会(Jリーグオフィス)

12/5(木)

## 第26回日本フットボールリーグ表彰式(東京ガーデンパレス) JFA第48回全日本U-12サッカー選手権大会協賛者懇親会 (JFAハウス)

12/8(日)

## 2024-25WEリーグクラシエカップ 準決勝 (PEACE STADIUM Connected by SoftBank)

12/10(火)

## 2024Jリーグアウォーズ(横浜アリーナ)

12/11(水)

## WEリーグ実行委員会、FIFA臨時総会(オンライン)

12/12(木)

## 第13回理事会(JFAハウス)

12/17(火)

## Jリーグ理事会(オンライン)

12/18(水)

## なでしこジャパン監督 就任会見(東京ミッドタウン)



デンマーク、スイスで指揮を執ったニルス・ニールセン氏をなでしこジャパン初の外国人監督として招聘しました。新しい挑戦が始まります。

12/21(土)

## 2024年度臨時評議員会(JFAハウス)

# 理事会トピックス



2024年度第13回理事会が12月12日(木)、JFAハウスで開催されました。主なトピックスをお伝えします。  
詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式ウェブサイトをご参照ください。

## 決議事項

### なでしこジャパンの監督選任

FIFA女子ワールドカップブラジル2027および2028年のロサンゼルスオリンピックを目指すなでしこジャパンの監督に、デンマークやスイスの女子代表監督などを歴任したNils NIELSEN(ニルス・ニールセン)氏が選任されました。

### U-16/17、U-19日本女子代表の監督選任

FIFA U-17女子ワールドカップ2025を目指すU-16/17日本女子代表チームは、2024年の同大会で日本を率いた白井貞義氏が、FIFA U-20女子ワールドカップ2026を目指すU-19日本女子代表チームは、ベトナム女子サッカーの統括および育成女子代表監督を務める井尻明氏がそれぞれ指揮を執ることになりました。

### 2028年ロサンゼルスオリンピックを目指す日本代表の監督選任

2028年のロサンゼルスオリンピックを目指す日本代表チームの監督として、2024年のパリオリンピックでU-23日本代表を率いた大岩剛氏が選任されました。

### U-16日本代表の監督選任

2026年のFIFA U-17ワールドカップを目指すU-16日本代表チームの監督は、現横浜FCコーチの小野信義氏に決まりました。

## 報告事項

### 2028年ロサンゼルスオリンピックを目指す日本代表のコーチ、GKコーチ

2028年のロサンゼルスオリンピックを目指す日本代表チームのコーチに羽田憲司氏、GKコーチに佐藤洋平氏が就任しました。羽田氏はU-19日本代表チームのコーチも兼任します。

### U-16/17、U-19日本女子代表のコーチ

U-16/17日本女子代表チームのコーチに横道玲香さん、U-19日本女子代表チームのコーチに鈴木木乃実さんが就任しました。

### 2030年と2034年のFIFAワールドカップ開催地

FIFA臨時総会2024が12月11日に開催され、2030年と2034年のFIFAワールドカップの開催地が決定しました。2030年大会はモロッコ、ポルトガル、スペインの共催で、FIFAワールドカップ開催100周年記念試合をアルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイの各国で1試合ずつ実施します。2034年大会のホストはサウジアラビアに決まりました。

### FIFA女子ワールドカップ ブラジル2027の日程および出場枠

第30回FIFAカOUNCIL会議が12月10日に開催され、FIFA女子ワールドカップブラジル2027が2027年6月24日～7月25日の日程で行われることになりました。出場枠32のうちアジアは6枠。また、3枠はアジアの2チームを含む10チームがプレーオフで争います。

# 臨時評議員会トピックス



2024年度臨時評議員会が12月21日(土)、JFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。  
詳細については、JFA公式ウェブサイトをご参照ください。

## 決議事項

### 評議員3名の選任および加盟団体認定と定款変更

交代に伴い評議員3名を選任したほか、日本サッカー指導者協会がNPO法人から一般社団法人に変更したことを受けて、新たに一般社団法人日本サッカー指導者協会として加盟団体(関連団体)に認定。それに伴い、「定款」を改正することを承認しました。

## 報告事項

### 2025年度事業計画および予算

事業計画は、「各種国際競技会への対応」「女子サッカー活性化の推進」「事業・収支改善への継続的な検証と実行」「サッカーやJFAの信頼の向上」の4つを注力事項として策定しました。また、予算については、正味財産ベースで収入214.2億円、支出230.4億円としました。特定資産からの計画的な支出を含んでおり、そのほかは、前年度に続いて財政規律を維持し、資金上の収支均衡を図った予算としています。

# Information

## JFA×花王「アタック」 JFAソーシャルバリューパートナーと JFAサポーター契約を締結

花王株式会社の衣料用洗剤ブランド「アタック」とJFAソーシャルバリューパートナーおよびJFAサポーターの契約を締結しました。日本代表とJFAアカデミー、JFAユニクロサッカーキッズに「アタック」を提供いただき、選手たちが清潔で快適なウエアでプレーできるようサポートいただきます。※11/28発表

## 西村雄一審判員が今シーズンで トップリーグ担当審判員から勇退

プロフェッショナルレフェリー(PR)で元国際審判員、Jリーグ担当審判員の西村雄一審判員が、2025シーズンからJFA審判マネージャーに就任するため、2024シーズンをもってトップリーグを担当する審判員から退くことになりました。※12/15発表

## その他の主なニュース

- 株式会社hacomonoと「U-12カテゴリーパートナー」契約を締結 ～ JFA 第48回全日本U-12サッカー選手権大会(11/26発表)
- 「blue-ing!」オープン1周年企画 SAMURAI BLUEイラスト展「閃青展」(11/29発表)
- 大会協賛社が決定 ～ 第33回全日本高等学校女子サッカー選手権大会(12/9発表)
- 株式会社モスフードサービスと初の大会協賛契約を締結 ～ 第33回全日本高等学校女子サッカー選手権大会(12/17発表)

# DREAM

## 夢があるから強くなる

JFA常務理事

山口香さんを

マンマーク!

第5回はJFA常務理事で筑波大学体育系教授、コナミグループ株式会社外取締役を務める山口香さん。

柔道の元世界女王として知られ、1988年のソウルオリンピックでは銅メダルを獲得。長男が関東サッカーリーグ1部エリース東京FCを率いる山口遼監督であり、サッカーとも深いつながりがあります。

**宮本** 山口さんは理事会のなかでも山椒のようなピリリと効いた発言をしてくださいます。以前、岡田(武史)さんと食事をご一緒させていただいたときに、『あなた理事会終わってもすぐに帰るんじゃなく、もっと話したほうがいいわよ』などとアドバイスしてもらって、ありがたかったなっています。

**山口** 宮本さんは少し遠い人っていうふうには皆さんからは見られているんじゃないかな、と。でも私もそうなんです。外からだだと怖いって、ピラニアみたいに見られている(笑)。でも一緒にいるとこんなに喋る人だったんだ、冗談も言うんだって驚かれます。自分から寄っていかないとダメだなんて私も感じてきたので、宮本さんに伝えました。私もそういう会議があるとすぐに帰っちゃうタイプだし(笑)。

**宮本** 女性アスリートの視点だったり、他のスポーツ団体に関わっているところの視点だったり、あるいは息子さんや鹿島アントラーズユースでプレーしていたので、サッカーをやっている子どもを持つ保護者の視点もあって、課題なども理解されている。その都度、違った視点をいただいています。

**山口** サッカー界にはそこまでの課題って実はあんまり見当たらず。昔から日本のスポーツ界ってなかなか新陳代謝が難しいところがあると思うんです。逆に強みというか、組織として(年齢の若い)宮本会長を選んだところもサッカーだからできたんじゃないかと感じますね。私自身、そういったことをここで学ばせてもらっているし、ほかの競技団体にとっても良い影響となればいいなという思いもありますよ。

**宮本** 息子さんを通してサッカーをずっと見ていらっしやっただと思います。

**山口** 柔道が個人競技であることにに対してサッカーは団体競技。どんなにいいストライカーがいたとしてもパスが出てこないゴールを奪えないし、戦術に則ってそれぞれが勝利の確率を上げていくために役割を果たしていくところが、社会にすごく似ていますよね。だから「サッカーは子どもを紳士にする」と言われていますが、そういうことなんだなって。

**宮本** アスリートの先輩として息子さんには何かアドバイスしていたのか、それとも放任していたのかと言いますと?

**山口** サッカーについては素人なので、アドバイスしたことなんてありません。褒めたこともないですよ。すごいねとか言ったこともない。彼も親に褒められるなんて期待していなかったと思います。振り返ってみて良かったなと感じたのは、アントラーズユースのときに寮に入って親元を離れたんですが、手出しできなくなったのは逆に良かったですね。保護者の方を見ていても、子離れて言うほど簡単じゃない。近くにいると、言いたくなっちゃうし、手出しができちゃうから。宮本さんもガンバ大阪のアカデミーで子どもたちを指導した経験がありますよね。伸びる子の特徴ってありますか?

**宮本** やっぱり人の話をしっかり聞ける子じゃないですかね。昔、中1の選手がどうして試合に出られないのかを聞きに来て、監督として試合に勝つこと、みんながどうやって伸びていくかを考えたうえで先発の11人を決めているという話をして。その子はユースに上がれず他の高校に行きましたが、大学を経てJ3のクラブへの加入が決まったんです。その後出会ったであろうたくさんの指導者に求められることを理解しつつ、自分を変化させていったからプロの入り口にまでたどり着けたようにも感じます。当時いた23人のうち2、3人しかプロになれていないなかで彼がその1人に入っているということは、聞く耳を持つって大事なんだな、とあらためて感じました。山口さんはどう考えますか。

**山口** 確かに聞く耳を持つ素直さというのはあるのかもしれないですね。あとは自分を持っていること。相反するように聞こえるかもしれないけど、人の意見を聞いたうえで最後は自分で決めて、一歩前に踏み出していか、チャレンジするとか、その覚悟みたいなものが伸びていくには必要なのかなって私は思いますね。

**宮本** やっぱり山口さんは違う視点があって、勉強になります。これからもいろいろと話を聞かせてください。

山口香 (やまぐち・かおり)

1964(昭和39)年12月28日生まれ。東京都豊島区出身。筑波大学卒業後、1984年の世界柔道選手権大会で日本人女性初の金メダル獲得。88年ソウルオリンピックで銅メダルを獲得。現役引退後は筑波大学大学院で体育学修士を取得し、武蔵大学で教鞭を執る。93年に1年間イギリス留学。2008年から筑波大学准教授、17年から同教授。全日本柔道連盟女子強化委員、日本オリンピック委員会理事、東京都教育委員会委員、日本バレーボール協会理事、コナミホールディングス取締役などを歴任。16年からJFA理事、24年から同常務理事。

誌面には掲載しきれなかった話も…  
▶ 対談動画公開中!



※次号は2025年2月発行予定/本誌クレジット表記のない写真: ©JFA、©JFA/PR、©Jリーグ、©WEリーグ

